

平成28年度

市民アンケート調査結果報告書

— 市における犬や猫に関する業務と

動物愛護センターの必要性について —

平成29年1月

盛岡市

目 次

| | |
|---------|---|
| I 事業の概要 | 1 |
|---------|---|

II 調査結果と考察

市における犬や猫に関する業務と動物愛護センターの必要性について

| | |
|-----------------------------|----|
| 問1 犬や猫等のことで困っていることについて | 3 |
| 問2 動物愛護業務の取組で充実させてほしいことについて | 7 |
| 問3 「動物愛護センター」の活動について | 11 |
| 問4 「動物愛護センター」の必要性について | 14 |
| 問5 動物愛護センターに必要だと思う機能について | 17 |

I 事業の概要

1 事業の目的

市民アンケート調査事業は、市政に対する市民の基本的意識を把握し、調査結果を施策検討の際の基礎資料として活用することにより、市政の合理的かつ効率的な運営を図るため実施しているものです。

2 事業の設計

- (1) 実施方法 アンケート方式による調査
- (2) 調査地域 盛岡市全域
- (3) 調査対象者 満 18 歳以上の市民
- (4) 標本数 2,000 人
- (5) 抽出方法 住民票ファイル（平成 28 年 7 月 15 日）から等間隔無作為抽出
- (6) 調査方法 郵送による配布・回収
- (7) 調査期間 平成 28 年 8 月 10 日～8 月 26 日

3 調査の内容

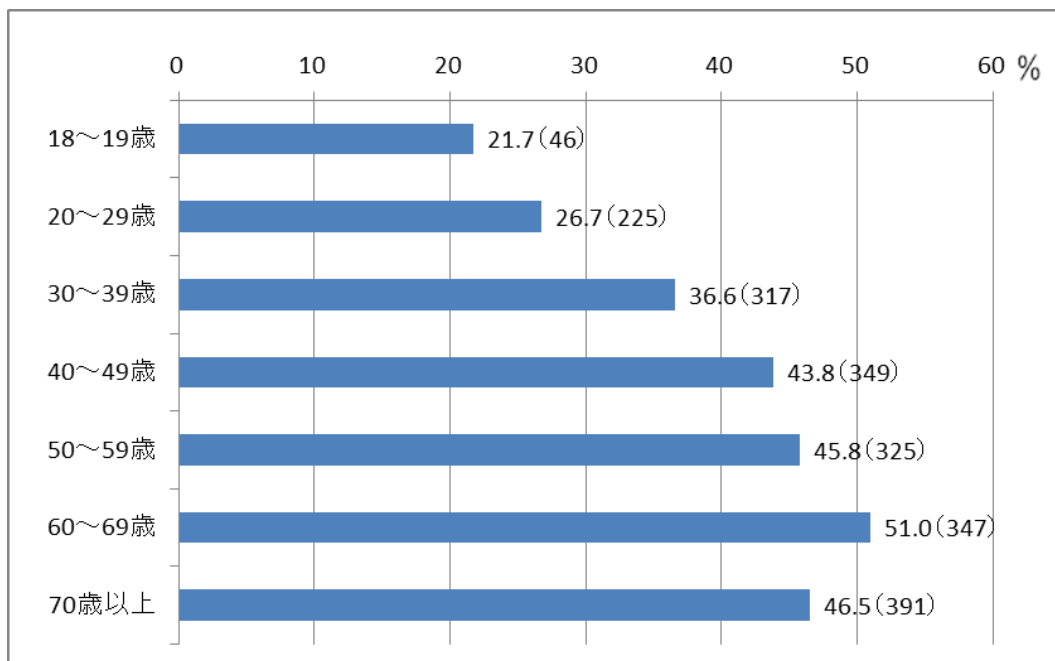
調査テーマ「市における犬や猫に関する業務と動物愛護センターの必要性について」

この調査は、センター建設の検討にあたり、動物愛護に対する市民の意識を把握するため、市で実施している犬や猫に関する業務のうち充実させてほしいこと、センターの必要性や求める機能等について調査したものです。

4 調査の回収結果

- (1) 対象者数 2,000 人
- (2) 有効回収数 849 人
- (3) 有効回収率 42.5 %

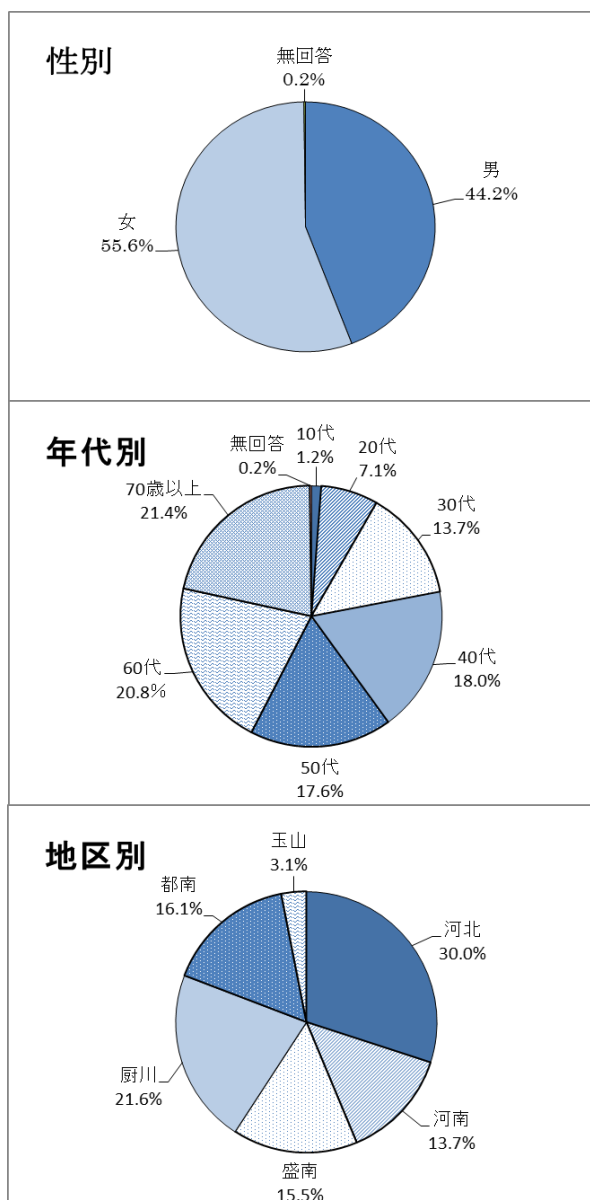
【年代別回収率】



() 内の数は、その年代の対象者の人数

5 調査回答者の内訳

| 区分 | 実数 (人) |
|--------------|--------|
| 全 体 | 849 |
| 【性別】 | |
| 男 性 | 375 |
| 女 性 | 472 |
| 無 回 答 | 2 |
| 【年代別】 | |
| 18 歳 ~ 19 歳 | 10 |
| 20 歳 ~ 29 歳 | 60 |
| 30 歳 ~ 39 歳 | 116 |
| 40 歳 ~ 49 歳 | 153 |
| 50 歳 ~ 59 歳 | 149 |
| 60 歳 ~ 69 歳 | 177 |
| 70 歳 以 上 | 182 |
| 無 回 答 | 2 |
| 【地区別】 | |
| 河 北 | 255 |
| 河 南 | 116 |
| 盛 南 | 132 |
| 厨 川 | 183 |
| 都 南 | 137 |
| 玉 山 | 26 |



【地区別】の区分について

現行のコミュニティ区分を基本単位とし、市域を次の6地区に区分しています。

| | | |
|---|----|------------------------------|
| 1 | 河北 | 桜城, 仁王, 上田, 緑が丘, 松園, 山岸, 上米内 |
| 2 | 河南 | 城南, 加賀野, 中野, 杜陵, 大慈寺, 築川 |
| 3 | 盛南 | 仙北, 本宮, 太田, 繫 |
| 4 | 厨川 | 西厨川, 土淵, 東厨川, 青山, みたけ, 北厨川 |
| 5 | 都南 | 見前, 飯岡, 乙部 |
| 6 | 玉山 | 好摩, 巻堀姫神, 渋民, 玉山藪川 |

6 留意事項について

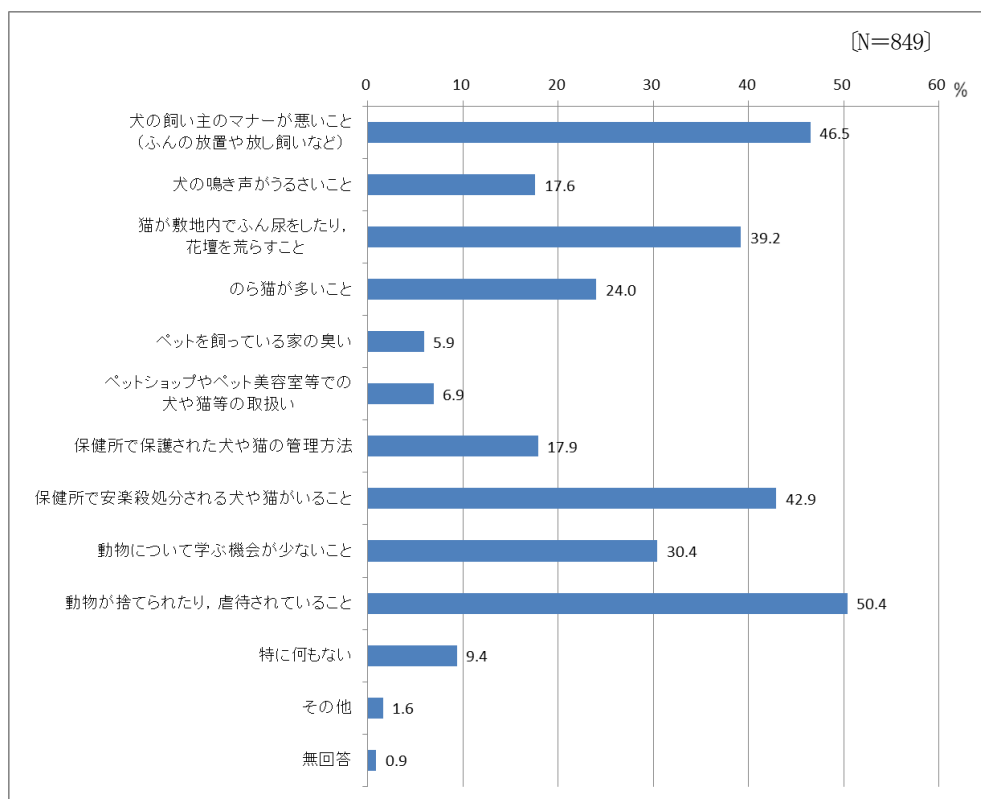
- (1) 比率はすべて百分率で表示し、小数点第2位を四捨五入して算出しました。したがって、合計が100.0%とならない場合があります。
- (2) 複数回答を求める設問では、その回答の数値は延べ回答数に対する百分率ではなく回答者数を100とした場合の百分率です。したがって、合計は100.0%を超えることがあります。
- (3) 「N」は、その設問の回答者の実数で、比率算出の基礎になります。

Ⅱ 調査結果と考察

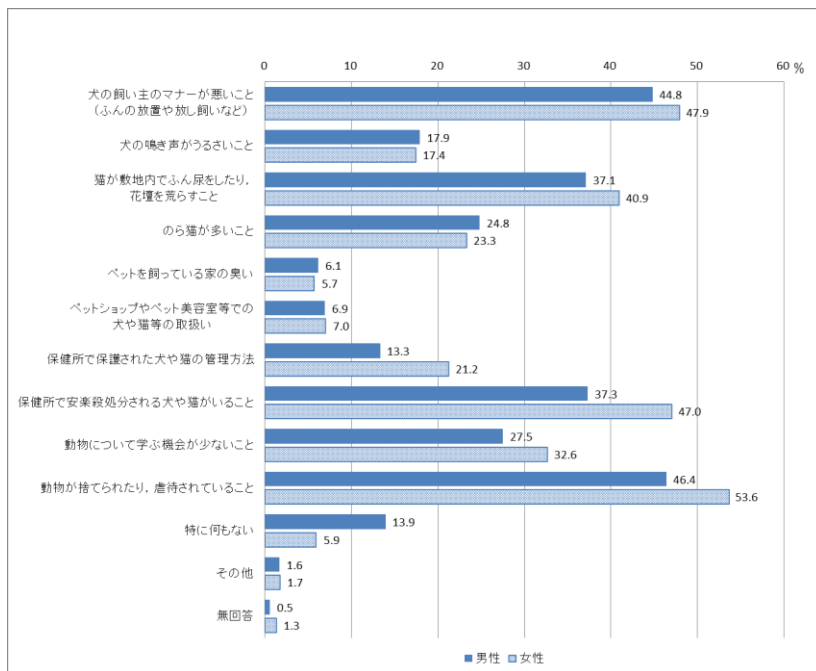
問1 あなたが、犬や猫等のことでお困りのこと、問題と思っていることは何ですか。次の中から、当てはまるものを全てお選びください。

- 1 犬の飼い主のマナーが悪いこと（ふんの放置や放し飼いなど）
- 2 犬の鳴き声がうるさいこと
- 3 猫が敷地内でふん尿をしたり、花壇を荒らすこと
- 4 のら猫が多いこと
- 5 ペットを飼っている家の臭い
- 6 ペットショップやペット美容室等での犬や猫等の取扱い
- 7 保健所で保護された犬や猫の管理方法
- 8 保健所で安楽殺処分される犬や猫がいること
- 9 動物について学ぶ機会が少ないこと
- 10 動物が捨てられたり、虐待されていること
- 11 特に何もない
- 12 その他（ ）

【全体】



「動物が捨てられたり、虐待されていること」の割合が 50.4%と最も高く、「保健所で安楽殺処分される犬や猫がいること」についても 42.9%であったことから、動物の命の取り扱い方について問題意識を持っている人が多いことが読み取れる。一方で、「犬の飼い主のマナーが悪いこと」が 46.5%、「猫が敷地内でふん尿したり、花壇を荒らすこと」が 39.2%であり、身近な住環境において犬猫の糞尿等を迷惑に感じているとの意見も 4 割程度あった。いずれも、人と動物の関わり方に改善すべき点があるという指摘と思われ、動物愛護管理行政に一層の取組を期待するものと考えられる。



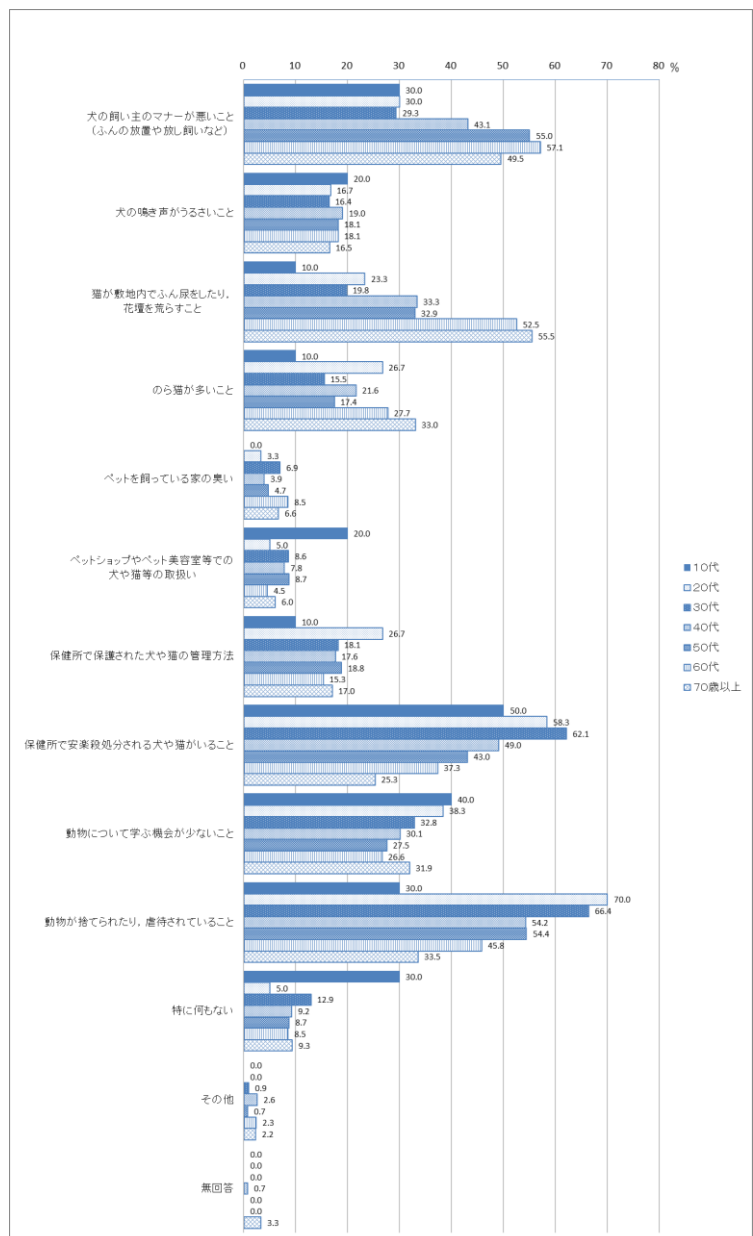
【性別】

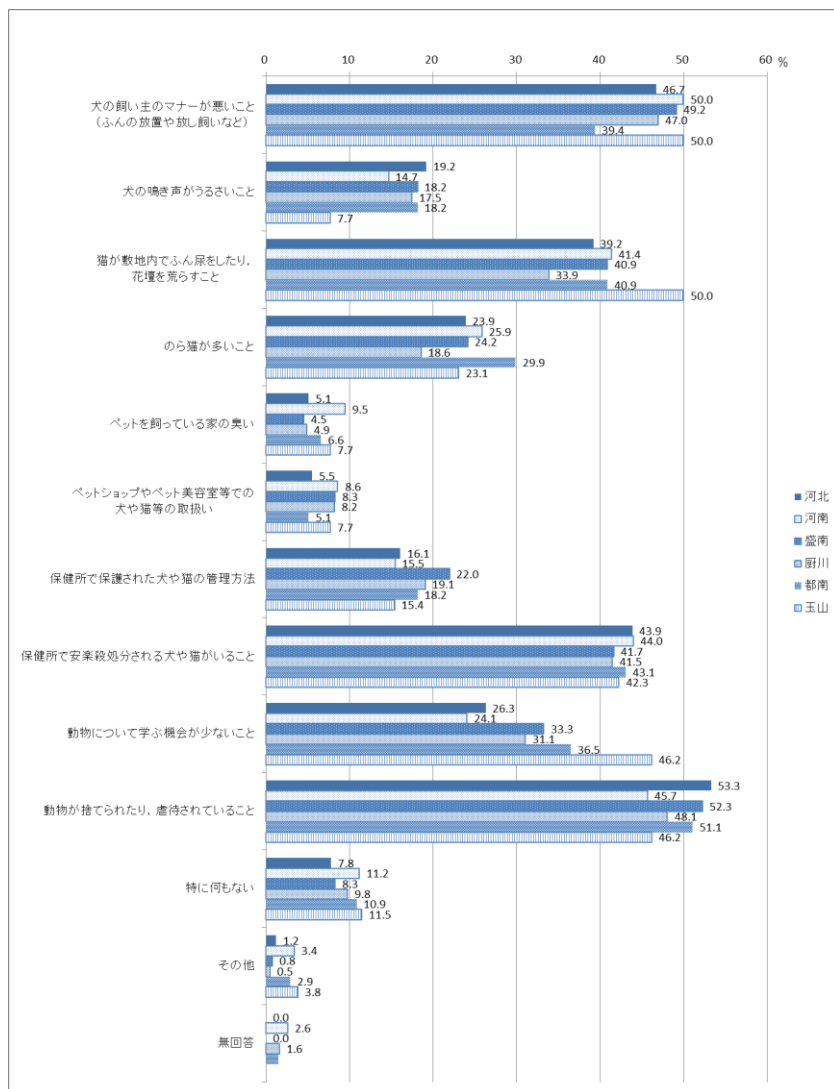
問題とされていることが「特に何もない」とした男性が13.9%だったのに対し、女性は5.9%と低く、「保健所で安楽殺処分される犬や猫がいること」「保健所で保護された犬や猫の管理方法」「動物が捨てられたり、虐待されていること」などの項目に対して男性よりも多くの人が問題意識を持っていることが示された。

【年代別】

20代及び30代で割合が高かったのは、「動物が捨てられたり、虐待されていること」「保健所で安楽殺処分される犬や猫がいること」で、約6割から7割の多くの人が動物の取り扱われ方を問題視していることが分かった。これは、年代が低い世代ではSNS等で多くのニュースや情報に触れる機会が多く、動物愛護に関しても社会的な問題として認識されているものと考えられる。

一方で、60代及び70代では「犬の飼い主のマナーが悪いこと」や「猫が敷地内でふん尿をしたり、花壇を荒らすこと」の割合が高く、実生活上の問題点を挙げる人が多かった。





【地区別】

玉山地区では、「犬の飼い主のマナーが悪いこと」や「猫が敷地内でふん尿をしたり、花壇を荒らすこと」の割合が高く、さらに「動物について学ぶ機会が少ない」の割合も高かった。これは、これまで市で実施する啓発イベントは市中心部で開催することが多かった影響もあると考えられ、今後は玉山地区での開催やイベント情報の周知方法を検討する必要がある。

※「その他」に記載された主なもの

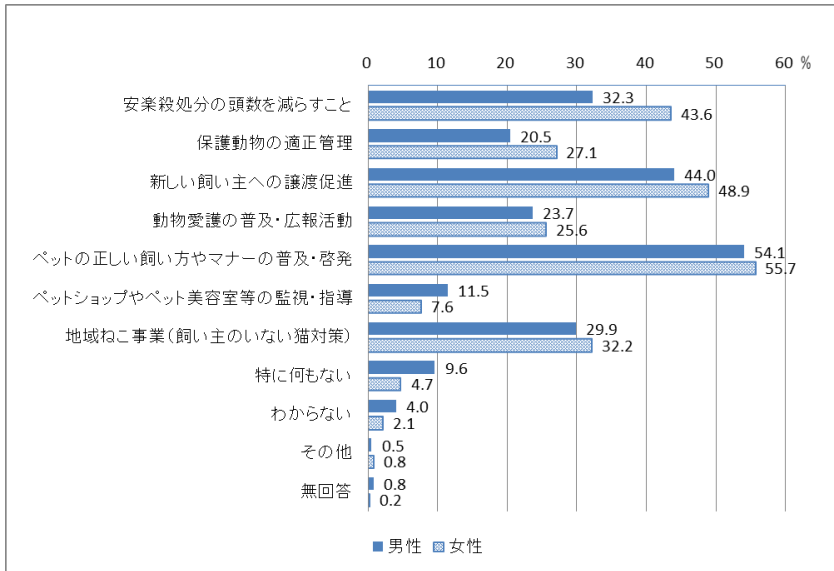
- ・夜間の犬の散歩
- ・のら猫に食べ物を与える人がいる
- ・ペット死後の埋葬
- ・交通事故に遭う動物が多い
- ・保健所での管理方法を知る機会がない

その他の自由記載欄に記載された問題点としては、犬の飼い方マナーに関するものが 14 件、野良猫へのえさやりが 7 件と、具体的な被害について記載されていた。また、アンケートの選択肢の中の保健所業務（保護された犬や猫の管理、安楽殺処分）について、「知る機会がない」「情報がない」との意見が 4 件あった。

全体を通して、女性と年代が低い世代で、動物の愛護や適正な取扱いに関する意識が高い傾向が見られた。今後、動物愛護管理行政に対し、飼い主に対する適正飼養の指導・啓発のみならず、行政機関そのものにおける動物の取扱方がより適正なものとなるよう期待が強まるものと思われる。

【性別、年代別、地区別の回答数】

| | | 実数（人） | 犬の飼い主のマナーが悪いこと（ふんの放置や放し飼いなど） | 犬の鳴き声がうるさいこと | 猫が敷地内でふん尿をしたり、花壇を荒らすこと | のら猫が多いこと | ペットを飼っている家の臭い | ペットショップやペット美容室等での犬や猫等の取扱い | 保健所で保護された犬や猫の管理方法 | 保健所で安楽殺処分される犬や猫がいること | 動物について学ぶ機会が少ないこと | 動物が捨てられたり、虐待されていること | 特に何も無い | その他 | 無回答 |
|-----|--------|-------|------------------------------|--------------|------------------------|----------|---------------|---------------------------|-------------------|----------------------|------------------|---------------------|--------|-----|-----|
| 全 体 | | 849 | 395 | 149 | 333 | 204 | 50 | 59 | 152 | 364 | 258 | 428 | 80 | 14 | 8 |
| 性別 | 男 | 375 | 168 | 67 | 139 | 93 | 23 | 26 | 50 | 140 | 103 | 174 | 52 | 6 | 2 |
| | 女 | 472 | 226 | 82 | 193 | 110 | 27 | 33 | 100 | 222 | 154 | 253 | 28 | 8 | 6 |
| | 無回答 | 2 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 2 | 2 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 年代 | 18～19歳 | 10 | 3 | 2 | 1 | 1 | 0 | 2 | 1 | 5 | 4 | 3 | 3 | 0 | 0 |
| | 20～29歳 | 60 | 18 | 10 | 14 | 16 | 2 | 3 | 16 | 35 | 23 | 42 | 3 | 0 | 0 |
| | 30～39歳 | 116 | 34 | 19 | 23 | 18 | 8 | 10 | 21 | 72 | 38 | 77 | 15 | 1 | 0 |
| | 40～49歳 | 153 | 66 | 29 | 51 | 33 | 6 | 12 | 27 | 75 | 46 | 83 | 14 | 4 | 1 |
| | 50～59歳 | 149 | 82 | 27 | 49 | 26 | 7 | 13 | 28 | 64 | 41 | 81 | 13 | 1 | 0 |
| | 60～69歳 | 177 | 101 | 32 | 93 | 49 | 15 | 8 | 27 | 66 | 47 | 81 | 15 | 4 | 0 |
| | 70歳以上 | 182 | 90 | 30 | 101 | 60 | 12 | 11 | 31 | 46 | 58 | 61 | 17 | 4 | 6 |
| | 無回答 | 2 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 地区 | 河北 | 255 | 119 | 49 | 100 | 61 | 13 | 14 | 41 | 112 | 67 | 136 | 20 | 3 | 0 |
| | 河南 | 116 | 58 | 17 | 48 | 30 | 11 | 10 | 18 | 51 | 28 | 53 | 13 | 4 | 3 |
| | 盛南 | 132 | 65 | 24 | 54 | 32 | 6 | 11 | 29 | 55 | 44 | 69 | 11 | 1 | 0 |
| | 厨川 | 183 | 86 | 32 | 62 | 34 | 9 | 15 | 35 | 76 | 57 | 88 | 18 | 1 | 3 |
| | 都南 | 137 | 54 | 25 | 56 | 41 | 9 | 7 | 25 | 59 | 50 | 70 | 15 | 4 | 2 |
| | 玉山 | 26 | 13 | 2 | 13 | 6 | 2 | 2 | 4 | 11 | 12 | 12 | 3 | 1 | 0 |
| | 無回答 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

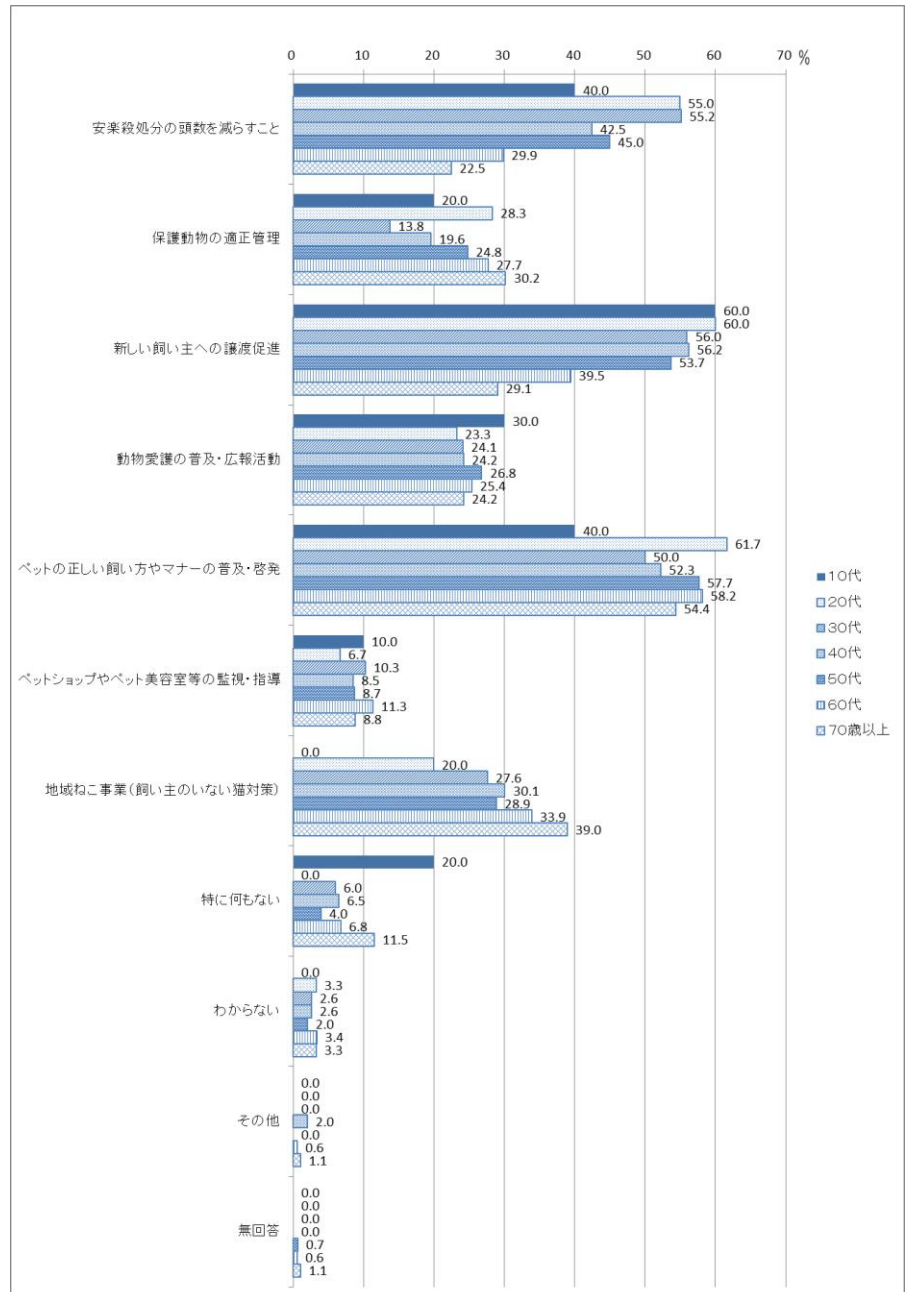


【性別】

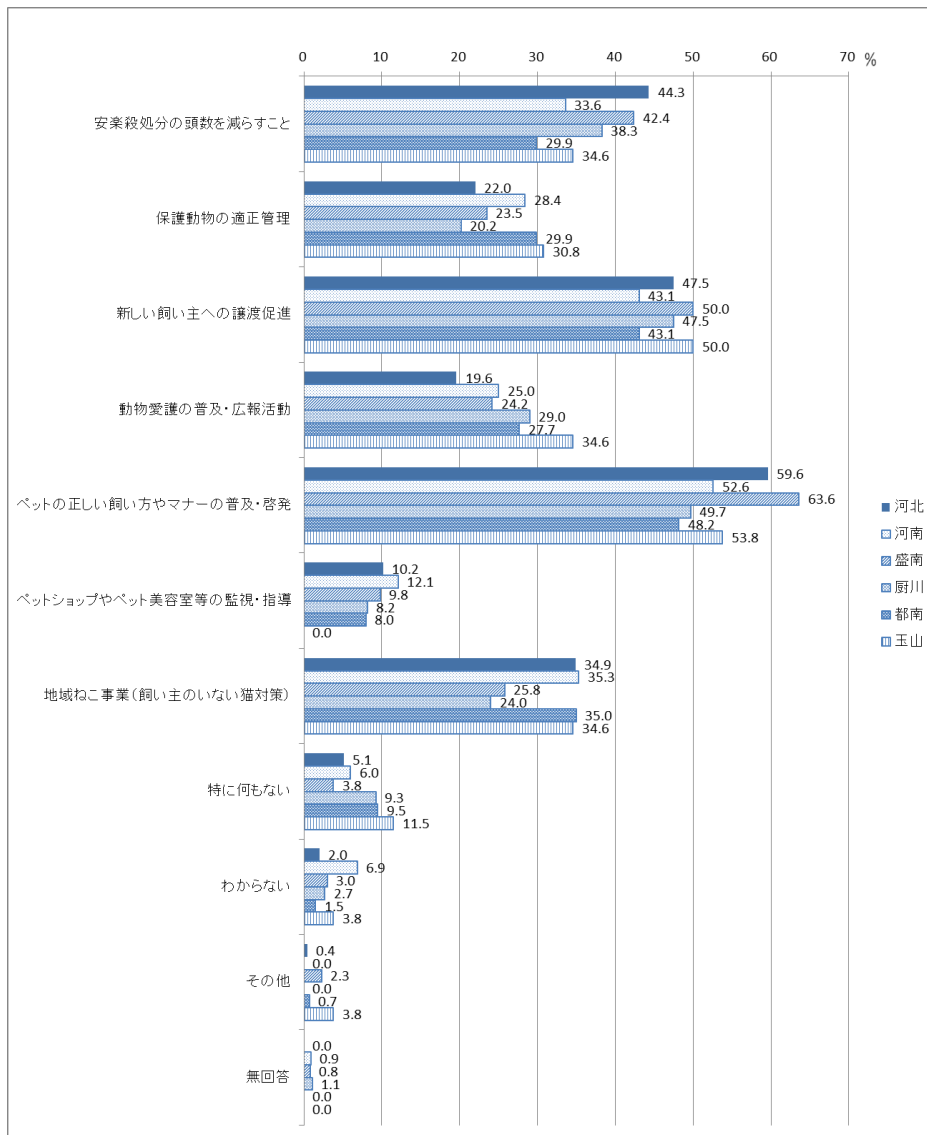
男性より女性の方が割合が高かったものとしては、「安楽殺処分の頭数を減らすこと」「保護動物の適正管理」「新しい飼い主への譲渡促進」などであった。このことから、女性の方が、動物の愛護・生命尊重について、より関心が高いと考えられる。

【年代別】

「安楽殺処分の頭数を減らすこと」「新しい飼い主への譲渡促進」について、20代及び30代においてはいずれも高い割合を示したが、年代が高くなるほど割合が少なくなる傾向がみられた。一方、「地域ねこ事業」については年代が高くなるほど割合が高くなった。これは、問1からも分かるように、60代以上の方が実生活で具体的な問題を感じており、その解決策となるような事業を充実させるよう期待しているものと考えられる。



【地区別】



※「その他」に記載された主なもの

- ・飼い主のマナーの向上
- ・殺処分をなくしてほしい
- ・個人のモラルの問題は市で扱う事業ではない

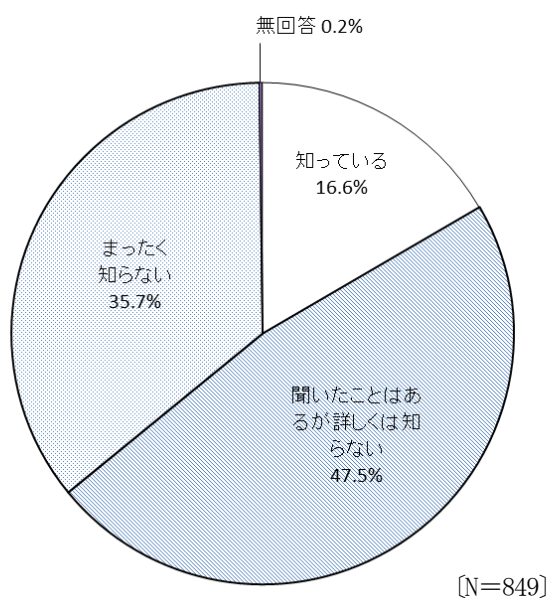
その他の自由記載欄の意見として、飼い主のマナー・モラル向上に関するものが7件、殺処分に関するものが3件、その他の市の事業に対する意見が5件あった。これらは、アンケートの選択肢と重複するものが多く、全体で割合が高かった項目と同様であった。

【性別、年代別、地区別の回答数】

| | | 実数（人） | 安楽処殺分の頭数を減らすこと | 保護動物の適正管理 | 新しい飼い主への譲渡促進 | 動物愛護の普及・広報活動 | ペットの正しい飼い方やマナーの普及・啓発 | ペットシヨップやペット美容室等の監視・指導 | 地域ねこ事業（飼い主のいない猫対策） | 特に何もない | わからない | その他 | 無回答 |
|-----|--------|-------|----------------|-----------|--------------|--------------|----------------------|-----------------------|--------------------|--------|-------|-----|-----|
| 全 体 | | 849 | 328 | 206 | 396 | 211 | 468 | 79 | 265 | 58 | 25 | 6 | 4 |
| 性別 | 男 | 375 | 121 | 77 | 165 | 89 | 203 | 43 | 112 | 36 | 15 | 2 | 3 |
| | 女 | 472 | 206 | 128 | 231 | 121 | 263 | 36 | 152 | 22 | 10 | 4 | 1 |
| | 無回答 | 2 | 1 | 1 | 0 | 1 | 2 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 年代 | 18～19歳 | 10 | 4 | 2 | 6 | 3 | 4 | 1 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 |
| | 20～29歳 | 60 | 33 | 17 | 36 | 14 | 37 | 4 | 12 | 0 | 2 | 0 | 0 |
| | 30～39歳 | 116 | 64 | 16 | 65 | 28 | 58 | 12 | 32 | 7 | 3 | 0 | 0 |
| | 40～49歳 | 153 | 65 | 30 | 86 | 37 | 80 | 13 | 46 | 10 | 4 | 3 | 0 |
| | 50～59歳 | 149 | 67 | 37 | 80 | 40 | 86 | 13 | 43 | 6 | 3 | 0 | 1 |
| | 60～69歳 | 177 | 53 | 49 | 70 | 45 | 103 | 20 | 60 | 12 | 6 | 1 | 1 |
| | 70歳以上 | 182 | 41 | 55 | 53 | 44 | 99 | 16 | 71 | 21 | 6 | 2 | 2 |
| | 無回答 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 |
| 地区 | 河北 | 255 | 113 | 56 | 121 | 50 | 152 | 26 | 89 | 13 | 5 | 1 | 0 |
| | 河南 | 116 | 39 | 33 | 50 | 29 | 61 | 14 | 41 | 7 | 8 | 0 | 1 |
| | 盛南 | 132 | 56 | 31 | 66 | 32 | 84 | 13 | 34 | 5 | 4 | 3 | 1 |
| | 厨川 | 183 | 70 | 37 | 87 | 53 | 91 | 15 | 44 | 17 | 5 | 0 | 2 |
| | 都南 | 137 | 41 | 41 | 59 | 38 | 66 | 11 | 48 | 13 | 2 | 1 | 0 |
| | 玉山 | 26 | 9 | 8 | 13 | 9 | 14 | 0 | 9 | 3 | 1 | 1 | 0 |
| | | 無回答 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

問3 近年、「動物愛護センター」を設置する自治体が増えています。そこでは、保護された犬や猫の飼育だけでなく、犬や猫の正しい飼い方教室、犬のしつけ教室、犬や猫等とのふれあい教室等体験学習、新しい飼い主への犬や猫の譲り渡し、動物愛護ボランティア活動への支援等の動物愛護に関する活動が行われていることをご存知ですか。次の中から1つだけお選びください。

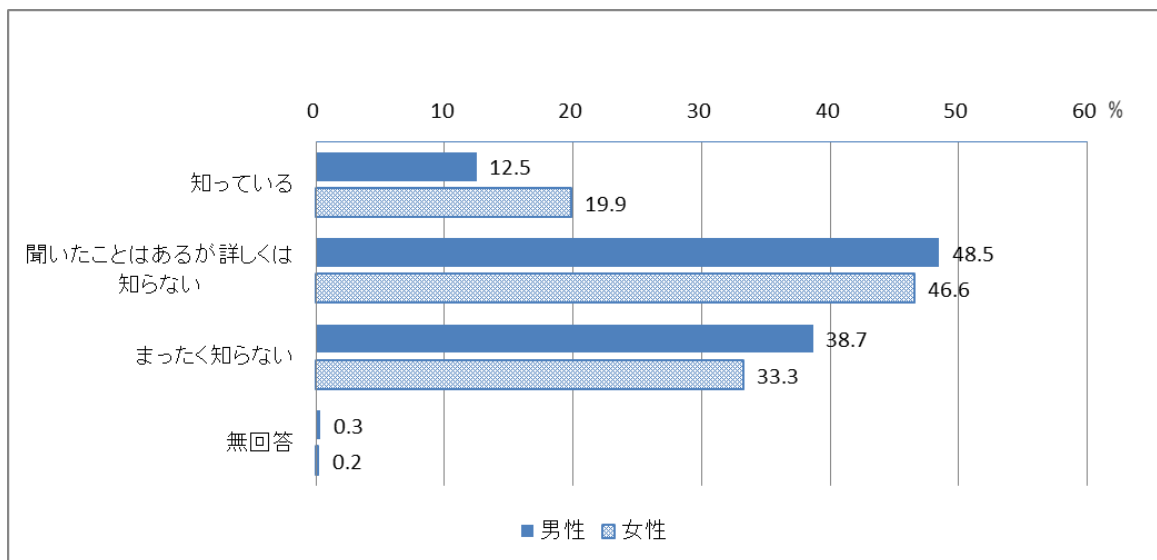
- 1 知っている
- 2 聞いたことはあるが詳しくは知らない
- 3 まったく知らない



【全体】

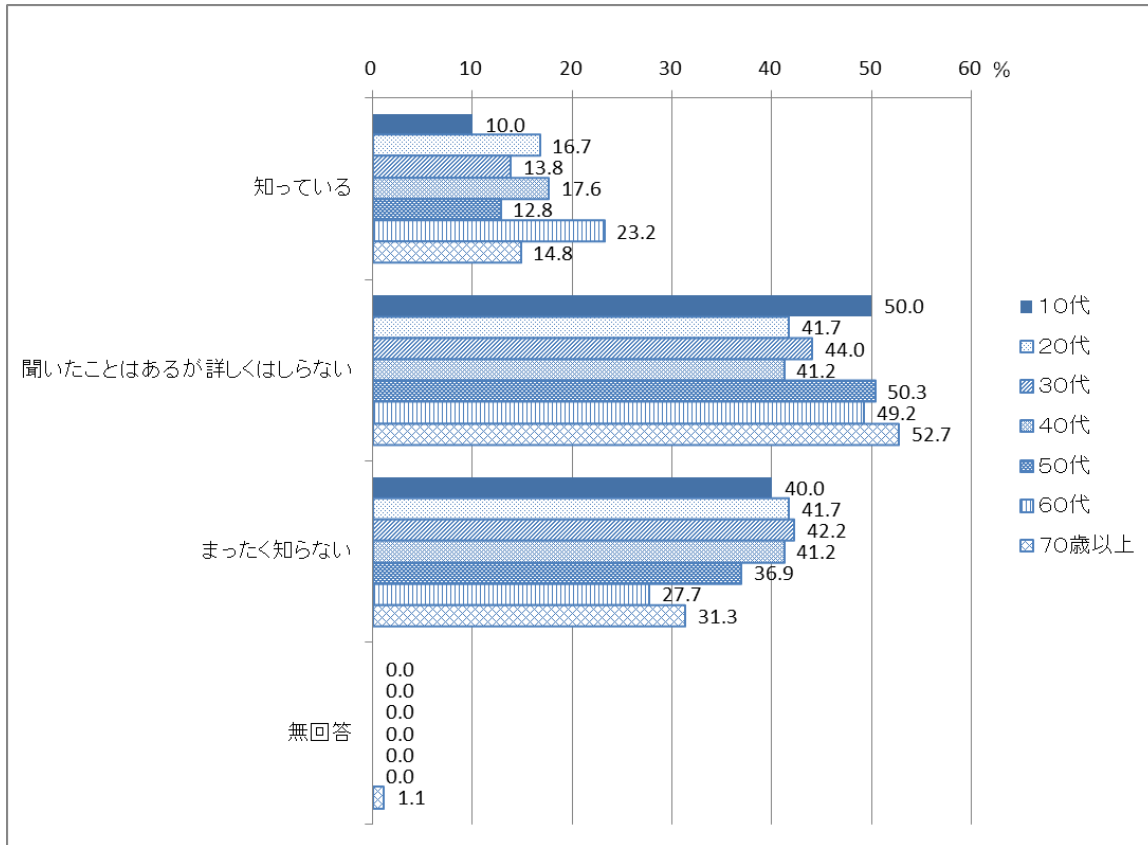
「知っている」の割合が16.6%であったのに対し、「聞いたことはあるが詳しくは知らない」と「まったく知らない」を合わせると83.2%が「知らない」と回答した。このことから、今後センターの必要性について検討する際にはその機能や役割について、市民等に対し丁寧に情報提供する必要があると思われた。

【性別】

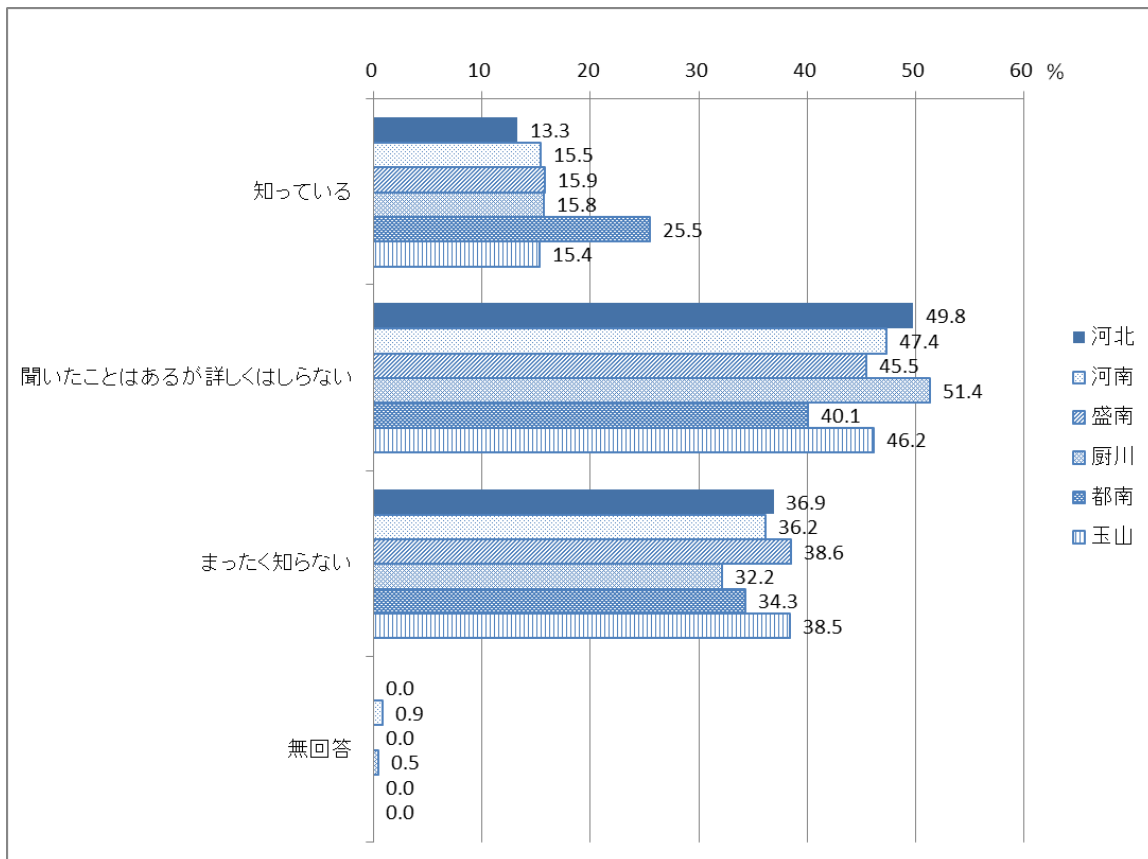


「知っている」の割合は、男性より女性の方が7.4ポイント高かった。知っているということは、動物愛護センターについて積極的に調べたり、詳しい情報を見たり聞いたりしているものと考えられ、これは、動物愛護全般に対し女性の方が関心が高い傾向が見られた問1及び問2の結果と一致する。

【年代別】



【地区別】



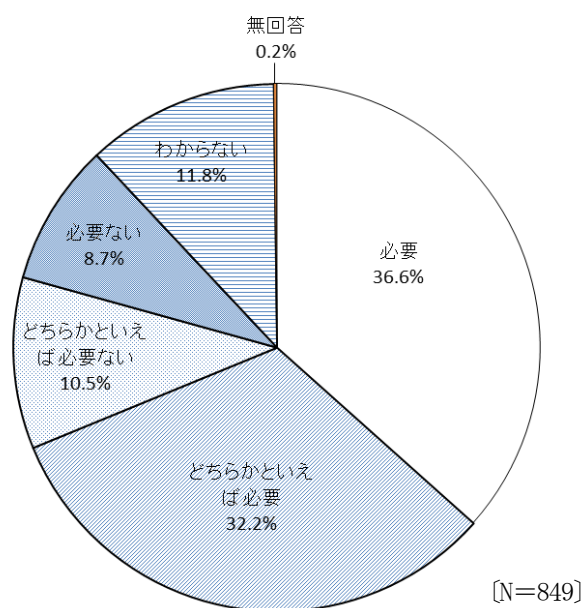
【性別，年代別，地区別の回答数】

| | | 実数 (人) | 知っている | 聞いたことはあるが詳しくは知らない | まったく知らない | 無回答 |
|-----|---------|-----------|-------|-------------------|----------|-----|
| 全 体 | | 849 | 141 | 403 | 303 | 2 |
| 性別 | 男 | 375 | 47 | 182 | 145 | 1 |
| | 女 | 472 | 94 | 220 | 157 | 1 |
| | 無回答 | 2 | 0 | 1 | 1 | 0 |
| 年代 | 18～19 歳 | 10 | 1 | 5 | 4 | 0 |
| | 20～29 歳 | 60 | 10 | 25 | 25 | 0 |
| | 30～39 歳 | 116 | 16 | 51 | 49 | 0 |
| | 40～49 歳 | 153 | 27 | 63 | 63 | 0 |
| | 50～59 歳 | 149 | 19 | 75 | 55 | 0 |
| | 60～69 歳 | 177 | 41 | 87 | 49 | 0 |
| | 70 歳以上 | 182 | 27 | 96 | 57 | 2 |
| | 無回答 | 2 | 0 | 1 | 1 | 0 |
| 地区 | 河北 | 255 | 34 | 127 | 94 | 0 |
| | 河南 | 116 | 18 | 55 | 42 | 1 |
| | 盛南 | 132 | 21 | 60 | 51 | 0 |
| | 厨川 | 183 | 29 | 94 | 59 | 1 |
| | 都南 | 137 | 35 | 55 | 47 | 0 |
| | 玉山 | 26 | 4 | 12 | 10 | 0 |
| | 無回答 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |



問4 現在、盛岡市には動物愛護に関する施設がありません。「動物愛護センター」を設置するためには、建設費や管理運営費等に公費が必要となります。あなたは、盛岡市にも動物愛護センターが必要だと思いますか。次の中から1つだけお選びください。

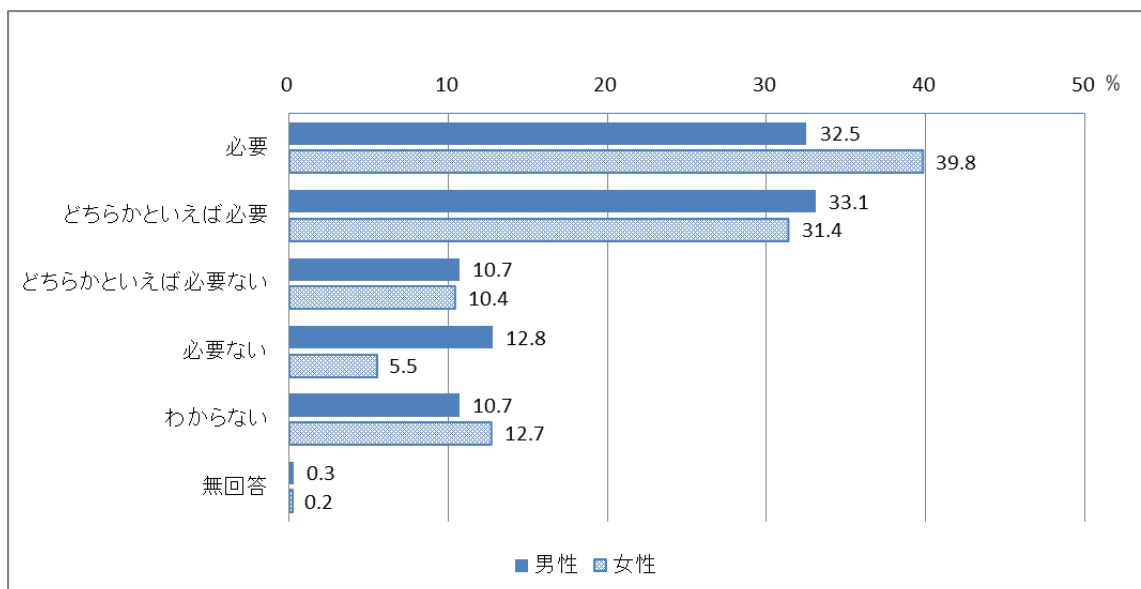
- 1 必要
- 2 どちらかといえば必要
- 3 どちらかといえば必要ない
- 4 必要ない
- 5 わからない



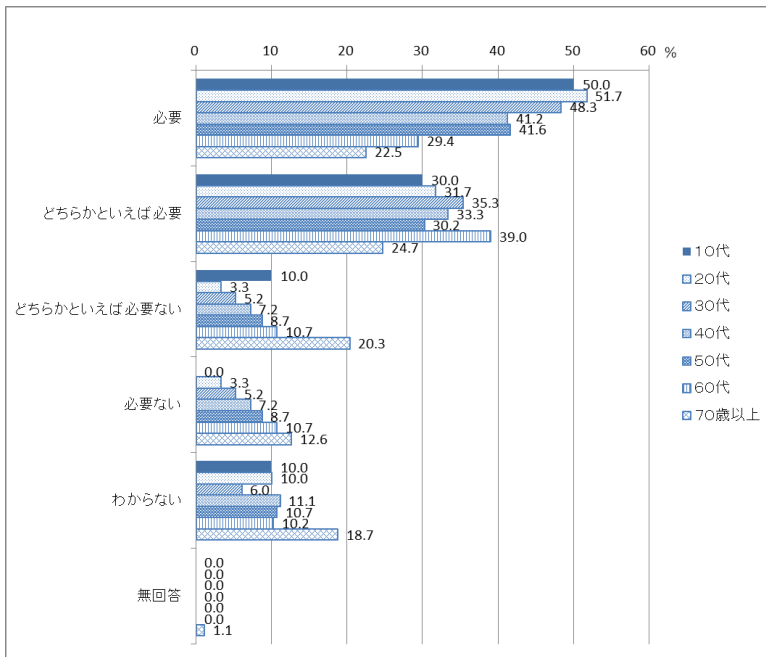
【全体】

「必要ない」と「どちらかといえば必要ない」を合わせた割合が19.2%だったのに対し、「必要」と「どちらかといえば必要」を合わせた割合は68.8%と、3倍以上の人がセンターは必要だと回答した。問3では、センターの活動について「知らない」「聞いたことはあるが詳しくは知らない」の割合が高かったが、設置については必要だと考えている人が多いことが分かった。

【性別】



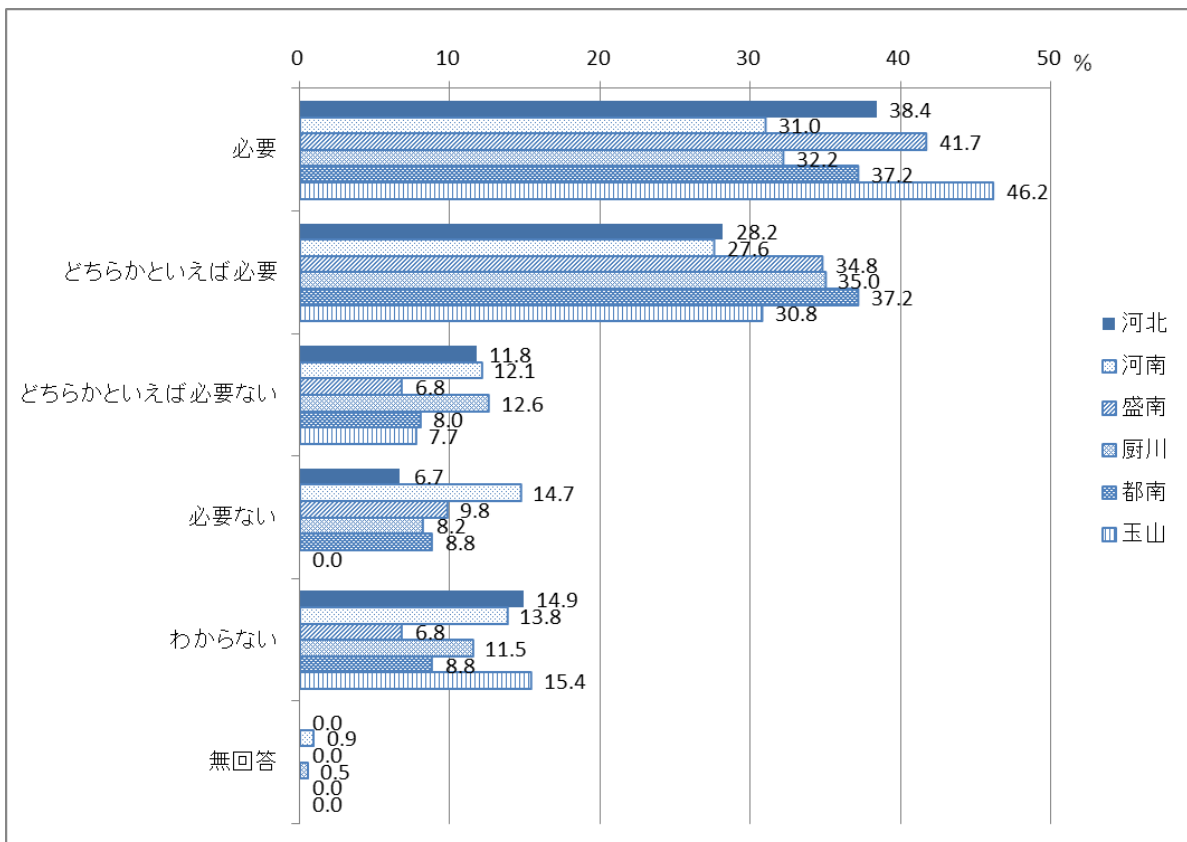
「必要」と「どちらかといえば必要」を合わせた割合は、女性の71.2%に対し、男性は65.6%とやや低く、反対に「必要ない」と「どちらかといえば必要ない」を合わせた割合は、女性の15.9%に対して男性は23.5%と男性の方が高かった。これは、動物愛護全般に対する関心が、男性より女性の方が高いことを反映していると考えられる。



【年代別】

「必要」の割合は、10代から30代が高く、年代が高くなるほど割合が低くなる傾向が見られた。反対に、「どちらかといえば必要ない」と「必要ない」を合わせた割合は、年代が高いほど高いという結果となった。

【地区別】



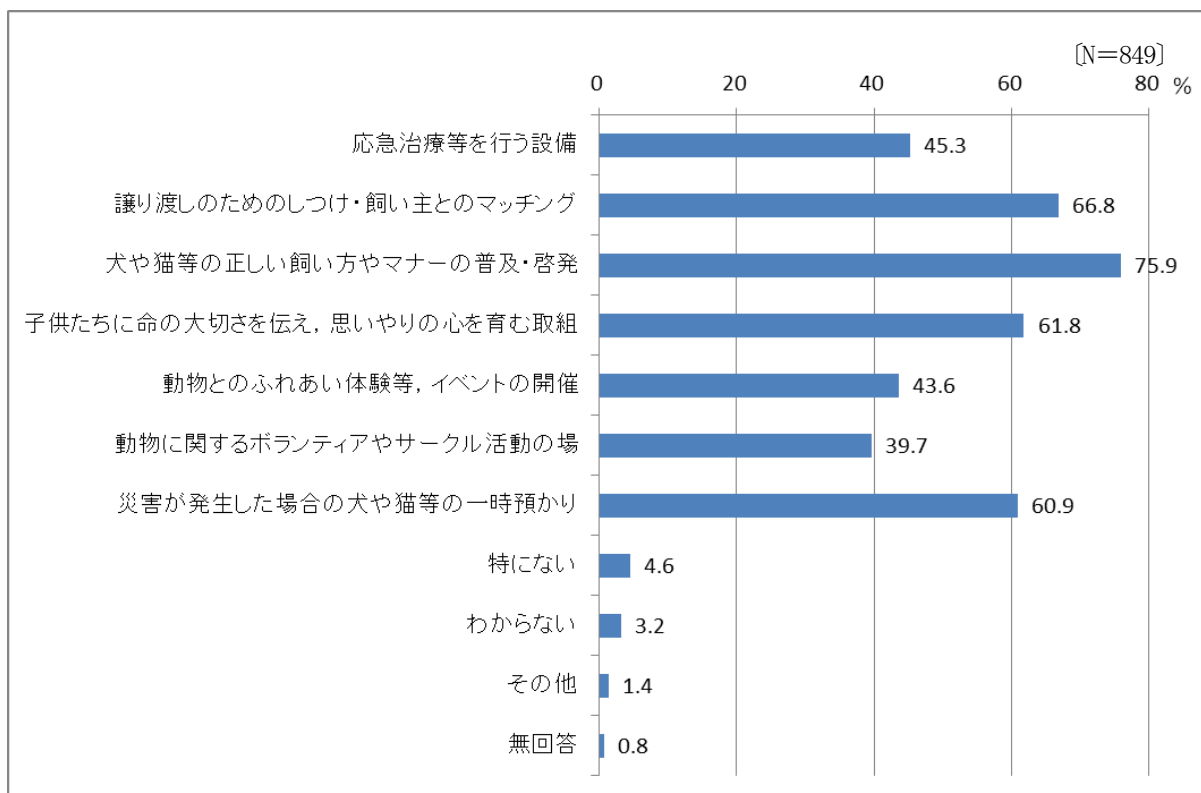
【性別、年代別、地区別の回答数】

| | | 実数 (人) | 必要 | どちらかといえ ば必要 | どちらかといえ ば必要ない | 必要ない | わからない | 無回答 |
|-----|---------|-----------|-----|----------------|------------------|------|-------|-----|
| 全 体 | | 849 | 311 | 273 | 89 | 74 | 100 | 2 |
| 性別 | 男 | 375 | 122 | 124 | 40 | 48 | 40 | 1 |
| | 女 | 472 | 188 | 148 | 49 | 26 | 60 | 1 |
| | 無回答 | 2 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 年代 | 18～19 歳 | 10 | 5 | 3 | 1 | 0 | 1 | 0 |
| | 20～29 歳 | 60 | 31 | 19 | 2 | 2 | 6 | 0 |
| | 30～39 歳 | 116 | 56 | 41 | 6 | 6 | 7 | 0 |
| | 40～49 歳 | 153 | 63 | 51 | 11 | 11 | 17 | 0 |
| | 50～59 歳 | 149 | 62 | 45 | 13 | 13 | 16 | 0 |
| | 60～69 歳 | 177 | 52 | 69 | 19 | 19 | 18 | 0 |
| | 70 歳以上 | 182 | 41 | 45 | 37 | 23 | 34 | 2 |
| | 無回答 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 |
| 地区 | 河北 | 255 | 98 | 72 | 30 | 17 | 38 | 0 |
| | 河南 | 116 | 36 | 32 | 14 | 17 | 16 | 1 |
| | 盛南 | 132 | 55 | 46 | 9 | 13 | 9 | 0 |
| | 厨川 | 183 | 59 | 64 | 23 | 15 | 21 | 1 |
| | 都南 | 137 | 51 | 51 | 11 | 12 | 12 | 0 |
| | 玉山 | 26 | 12 | 8 | 2 | 0 | 4 | 0 |
| | | 無回答 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

問5 盛岡市に動物愛護センターを建設するとしたら、「保護された犬や猫等を適正に飼育する環境」の他に、必要だと思う機能は何ですか。
次の中から、当てはまるもの全てお選びください。

- 1 応急治療等を行う設備
- 2 譲り渡しのためのしつけ・飼い主とのマッチング
- 3 犬や猫等の正しい飼い方やマナーの普及・啓発
- 4 子供たちに命の大切さを伝え、思いやりの心を育む取組
- 5 動物とのふれあい体験等、イベントの開催
- 6 動物に関するボランティアやサークル活動の場
- 7 災害が発生した場合の犬や猫等の一時預かり
- 8 特にない
- 9 わからない
- 10 その他 ()

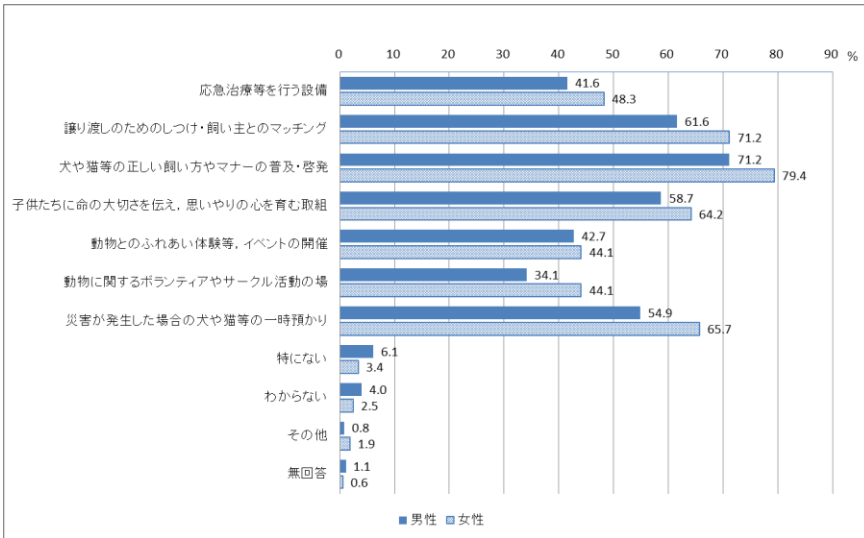
【全体】



最も割合が高かったのは「犬や猫等の正しい飼い方やマナーの普及・啓発」で、75.9%だった。これは、問1問2の結果と同様に、飼い方マナーの向上を望む人が多いことを示していると考えられる。次に、「譲り渡しのためのしつけ・飼い主とのマッチング」「子供たちに命の大切さを伝え、思いやりの心を育む取組」「災害が発生した場合の犬や猫等の一時預かり」についても、60%以上と高い割合だった。このことから、動物愛護センターを設置する場合、様々な機能を有する多目的施設であることが期待されるものと考えられる。反対に、「応急治療等を行う設備」「動物とのふれあい体験等、イベントの開催」「動物に関するボランティアやサークル活動の場」の割合が比較的低かったのは、動物病院等の他施設でも実施可能と捉えられていることによると思われる。

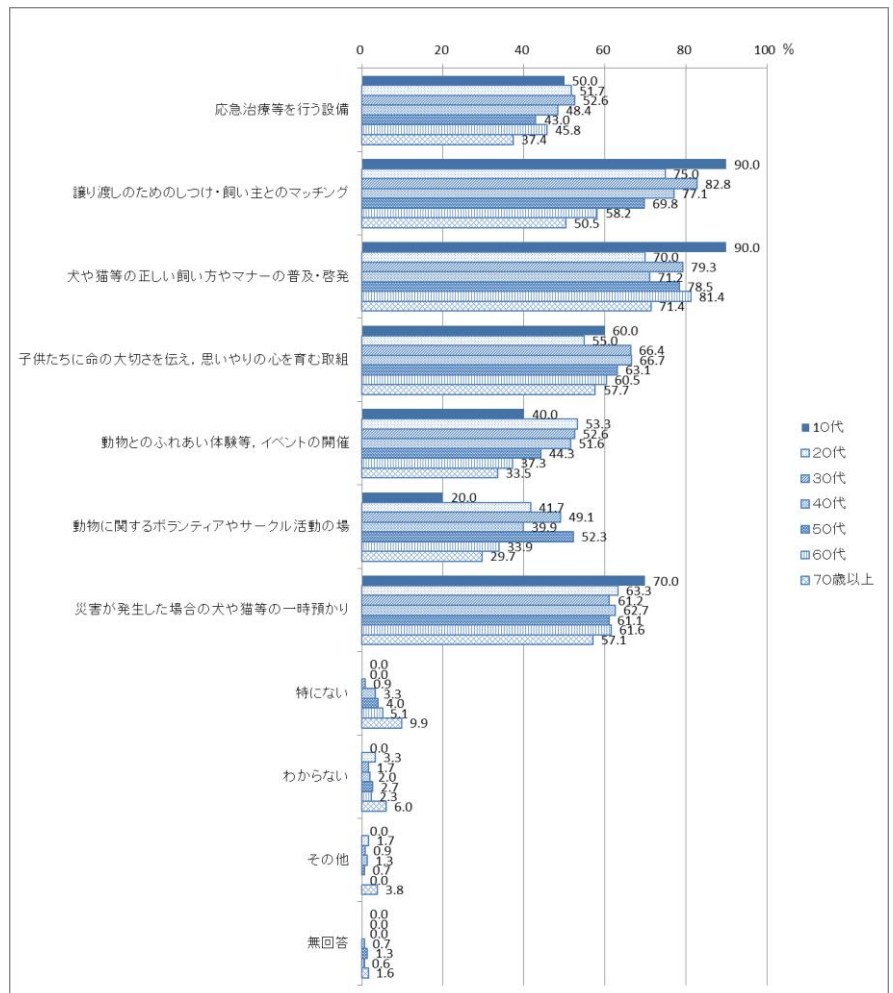
【性別】

どの項目も、男性よりも女性の割合が高い傾向が見られた。中でも、「災害が発生した場合の犬や猫等の一時預かり」及び「動物に関するボランティアやサークル活動の場」については、10ポイント以上高かった。このことから、災害時のペットの処遇やボランティア等について、女性の方がより関心が高いと考えられる。

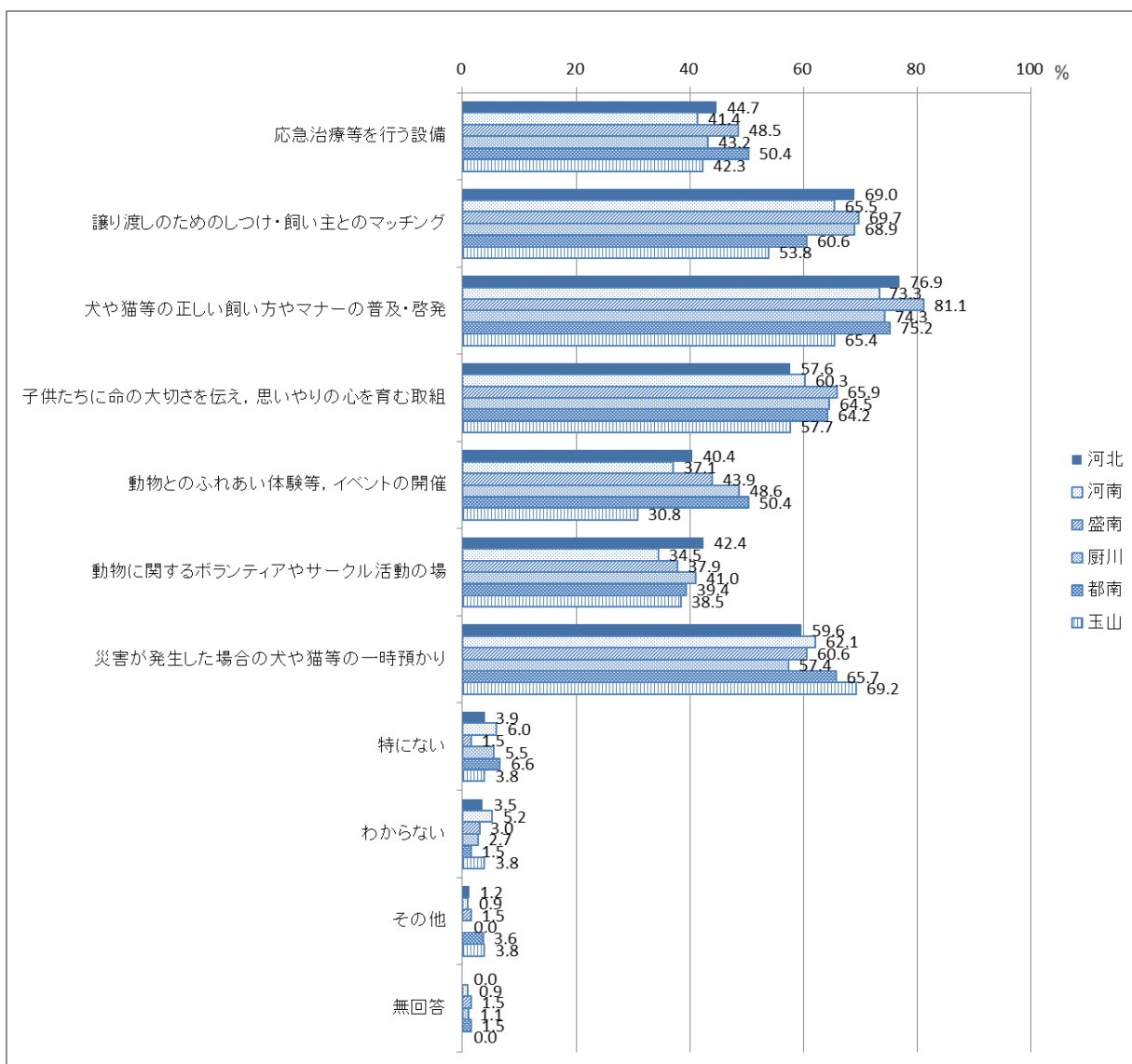


【年代別】

全体で割合が高かった項目は、どの年代でも高い割合だったが、10代では「譲り渡しのためのしつけ・飼い主とのマッチング」「犬や猫等の正しい飼い方やマナーの普及・啓発」についての割合が90%と非常に高かった。



【地区別】



※「その他」に記載された主なもの

- ・ペットの飼育環境のチェック，指導
- ・動物に関する相談窓口の設置
- ・殺処分ゼロへの取り組み
- ・避妊，去勢手術等の対策
- ・他の施設や施策に力を入れるべき

その他の自由記載欄の意見としては，飼い主のマナー・モラル向上に関するものが 12 件，その他の機能（セラピー，不妊手術，殺処分ゼロ等）に関するものが 23 件あった。一方で，センター設置に反対するものが 14 件あり，動物よりも人間のための施設や事業に力を入れてほしいといった理由が多く挙げられていた。飼い主マナーの向上を望む意見の中にも，ペットの問題は個人の問題との考え方が少なくないことから，動物愛護事業の公共性について丁寧な説明が必要になるものと思われる。

【性別、年代別、地区別の回答数】

| | | 実数 (人) | 応急治療等を行う設備 | 譲り渡しのためのしつけ・飼い主とのマッチング | 犬や猫等の正しい飼い方やマナーの普及・啓発 | 子供たちに命の大切さを伝え、思いやりの心を育む取組 | 動物とのふれあい体験等、イベントの開催 | 動物に関するボランティアやサークル活動の場 | 災害が発生した場合の犬や猫等の一時預かり | 特にない | わからない | その他 | 無回答 |
|-----|--------|-----------|------------|------------------------|-----------------------|---------------------------|---------------------|-----------------------|----------------------|------|-------|-----|-----|
| 全 体 | | 849 | 385 | 567 | 644 | 525 | 370 | 337 | 517 | 39 | 27 | 12 | 7 |
| 性別 | 男 | 375 | 156 | 231 | 267 | 220 | 160 | 128 | 206 | 23 | 15 | 3 | 4 |
| | 女 | 472 | 228 | 336 | 375 | 303 | 208 | 208 | 310 | 16 | 12 | 9 | 3 |
| | 無回答 | 2 | 1 | 0 | 2 | 2 | 2 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 年代 | 18～19歳 | 10 | 5 | 9 | 9 | 6 | 4 | 2 | 7 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 20～29歳 | 60 | 31 | 45 | 42 | 33 | 32 | 25 | 38 | 0 | 2 | 1 | 0 |
| | 30～39歳 | 116 | 61 | 96 | 92 | 77 | 61 | 57 | 71 | 1 | 2 | 1 | 0 |
| | 40～49歳 | 153 | 74 | 118 | 109 | 102 | 79 | 61 | 96 | 5 | 3 | 2 | 1 |
| | 50～59歳 | 149 | 64 | 104 | 117 | 94 | 66 | 78 | 91 | 6 | 4 | 1 | 2 |
| | 60～69歳 | 177 | 81 | 103 | 144 | 107 | 66 | 60 | 109 | 9 | 4 | 0 | 1 |
| | 70歳以上 | 182 | 68 | 92 | 130 | 105 | 61 | 54 | 104 | 18 | 11 | 7 | 3 |
| | 無回答 | 2 | 1 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 |
| 地区 | 河北 | 255 | 114 | 176 | 196 | 147 | 103 | 108 | 152 | 10 | 9 | 3 | 0 |
| | 河南 | 116 | 48 | 76 | 85 | 70 | 43 | 40 | 72 | 7 | 6 | 1 | 1 |
| | 盛南 | 132 | 64 | 92 | 107 | 87 | 58 | 50 | 80 | 2 | 4 | 2 | 2 |
| | 厨川 | 183 | 79 | 126 | 136 | 118 | 89 | 75 | 105 | 10 | 5 | 0 | 2 |
| | 都南 | 137 | 69 | 83 | 103 | 88 | 69 | 54 | 90 | 9 | 2 | 5 | 2 |
| | 玉山 | 26 | 11 | 14 | 17 | 15 | 8 | 10 | 18 | 1 | 1 | 1 | 0 |
| | 無回答 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

平成 28 年度市民アンケート調査結果報告書
平成 29 年 1 月発行

発行・編集 盛岡市市長公室広聴広報課
〒020-8530 盛岡市内丸 12 番 2 号
電話 (019) 626-7517 (直通)

この報告書は再生紙を使用しています。